

# 第61回日本肺癌学会学術集会 “肺癌撲滅を目指して2020”

The 61st Annual Meeting of the Japan Lung Cancer Society: Eradication of lung cancer 2020

会長 木浦勝行 (岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科)

Katsuyuki Kiura (Department of Allergy and Respiratory Medicine, Okayama University Hospital)

“肺癌撲滅を目指して2020”をテーマとして第61回日本肺癌学会学術集会を2020年11月12日(木曜日)～14日(土曜日)にホテルグランヴィア岡山・岡山コンベンションセンター・ANA クラウンプラザホテル岡山・岡山シティミュージアム・岡山県医師会館の5施設で開催させて頂きました。

2019年12月末に中国武漢で発した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)はわが国を含め全世界で猛威を振るい、4月にはわが国でも緊急事態宣言が発出され多くの学術集会が中止、延期、完全Web開催に変更されていました。

このような状況で本学会を岡山で開催するか否か、行政との話し合いを含め事務局で慎重に検討し、十分な感染対策を実施した上で、Web配信を併用した現地開催で行うことを9月初旬に決定し、学会の常任理事会からも許可を頂きました。①現地発表と同時Web配信で討議の行えるハイブリッド形式(プレナリー、シンポジウム、ワークショップなど)、②現地発表のみ(一般口演[音声付パワーポイントでも発表は可能]、ポスター発表)、③Web配信のみ(患者・家族向けプログラム)、更に教育講演とWeb配信を許可された演題は後日オンデマンド配信を併用することを決定致しました。

このような厳しい状況にありましたが、1,238題(公募演題1,081題、指定演題157題)の応募を頂き、プレナリー4演題、シンポジウム12企画、ワークショップ20企画などを組むことができました。欧米を含め先行する大規模な学会では完全Web化されていたために、アンコールセッションに多くの質の高い演題が口演として応募され発表されました。免疫チェックポイント阻害薬同士の併用療法、術後分子標的療法、悪性胸膜中皮種に対する免疫療法などの発表はわが国のみならず世界のガイドラインを書きかえると思います。

現地の参加者数を非常に心配しておりました。通常開催では4,000人の参加を見込んでいましたが、ソーシャルディスタンスを保つためには会場の入場者を1/2から1/3にし、残りの方々はWeb配信で参加して頂くことを想定致しました。しかしながら、これは初めての試みであり、一体どのくらいの方が現地に会場して頂けるのか、Web配信に参加してくれるのか、全く不明でした。他の臨床系の学会と異なり日本肺癌学会は専門医制度を持っておりません。従って、単位取得の目的で会場される方はおられません。来場者は肺癌の最新の診療と研究、あるいは肺癌患者とご家族の支援のために参加されていると考えられます。さらに、用意しておりました大原美術館での会長招宴、拡大評議員懇親会、会員懇親会、養老孟子先生の特別講演も全て中止とせざるを得ませんでした。通常開催の会場費を払いながら、全く予想していなかったWeb配信費用を追加で負担する必要がありました。

今回の学術集会は、学術集会が本来持つべき姿に先鋭化されたものになっていたかもしれません。

参加者3,775名(現地参加者1,399名、Web参加者2,146名、招待/PAP 230名)と、例年の10%程度の減少に抑えられたことは本学会員の肺癌診療・研究に対する真摯な姿勢を示していると思います。

完全ハイブリッド形式ではありませんでしたが、11会場全ての会場で大きなトラブルもなく、発表・討議は可能だったようです。座長や発表者でWebや音声付パワーポイントをご利用された方の中にはCOVID-19が原因と言うより、通常診療業務多忙のためという方もおられたように窺っております。これらは今後の学術集会におけるハイブリッド形式の可能性を示すものと考えられます。

会長講演のタイトルは「進行肺癌の治癒を目指して」<sup>1)</sup>とし、局所進行肺非小細胞癌のお話しかできませんで





第61回日本肺癌学会学術集会 会長講演

したが、当時の研究は内科，外科，放射線科の力を結集した世界最高レベルだったとっております<sup>2-4</sup>。

大学院生・同門の先生方も日頃の研究成果を発表してくれました。【O2-3】SHP2 阻害剤は遺伝子変異陽性肺癌細胞株における分子標的薬の効果を増強する（狩野裕久），【O1-4】*Egfr* 改変肺癌マウスモデルを用いた Ad-SGE-REIC の抗腫瘍効果の検討（中須賀崇匡）[岡山大学ナノバイオ標的医療イノベーションセンター長公文裕巳先生・桃太郎源社との共同研究]，【O3-3】*Egfr* 改変肺癌マウスモデルを用いた EGFR-TKI，抗 VEGFR-2 抗体と抗 PD-1 抗体併用療法の検討（西井和也），【P1-1-7(B)】*Egfr* 改変肺癌マウスモデルを用い



第61回日本肺癌学会学術集会事務局と日本肺癌学会本部事務局



シンポジウム 1（座長は画面に北海道大学秋田教授は Web 参加，豊岡教授は on site で参加されている。会場の発表・討議の様子は Web で同時配信され，後日オンデマンドでも配信された）



閉会式後の記念撮影



た persister がん細胞に対する根治的薬物療法の開発 (大川祥), 【P2-22-189(D)】 間質性肺炎症例におけるニンテグニブの発がん抑制効果についての後方視的検討 (西達也), 【P1-1-6(A)】 患者由来 ROS1 肺癌細胞株の樹立と crizotinib 耐性機序の検討 (渡邊洋美),

【P2-17-110(E)】 抗がん抗原抗体を用いた免疫チェックポイント阻害薬の効果予測法の開発 [岡山大学工学部二見淳一郎先生との共同研究] (渡邊洋美), 【P3-27-91(C)】 非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬使用症例における胸腔ドレナージ術の安全性の後方視的検討 (中須賀崇匡), 【P1-3-31(A)】 経気管支肺生検で病理学的に悪性所見が得られず, 気管支洗浄液から EGFR 遺伝子変異を検出した肺癌の検討 (高田健二).

臨床研究の母体岡山肺癌治療研究会 (OLCSG) からは, 【O81-5】 免疫チェックポイント阻害薬治療中インフルエンザワクチン接種の安全性を検討するための前向き観察研究 (近森研一先生), 【O25-3】 ALK 融合遺伝子陽性非小細胞肺癌におけるアレクチニブ耐性後のクリゾチニブの有効性を検討する第Ⅱ相試験 (別所昭宏先生).

新医療研究開発センター堀田勝幸教授が構築したと言っても過言ではない NPO CS-Lung からは, 【O83-1】 肺癌レジストリ (CS-Lung-003) 研究デザインと現状 (西井和也), 【O37-5】 EGFR 遺伝子変異陽性進行肺癌に対する治療状況に関する前向きレジストリ研究 (西井和也), 【O38-5】 ドライバー変異陰性非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害剤の実態調査 (上月稔幸先生), 【O75-2】 EGFR 遺伝子変異陽性肺癌症例における再生検の状況 (工藤健一郎先生).

上記以外にも岡山大学病院の呼吸器外科・放射線科・看護部・薬剤部のスタッフの方々にはプログラム委員, 査読委員, シンポジウム・ワークショップ・特

別企画の演者・座長として学会を支えて頂きました。2018年6月18日以来32回の打ち合わせ会議を重ね, 多くの仕事をお願い致しました事務局長市原英基講師, 久保寿夫先生, 事務の大橋香織さん, また, 初のハイブリッド開催を全面的にバックアップして頂いた(株)メッドの方々にもこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

COVID-19第2波とその後見舞われる第3波の間で, 会期中会期後にもクラスターの発生もなく無事に学術集会を終えられた幸運にも感謝致します。有望なワクチン開発も進んでいるようであり, 来年以降はCOVID-19のない穏やかな学会が開催されることを心より祈っております。

## 文 献

- 1) 木浦勝行: 進行肺癌の治療を目指して. 肺癌 (2020) 60, 438.
- 2) Kiura K, Ueoka H, Segawa Y, Tabata M, Kamei H, et al.: Phase I/II study of docetaxel and cisplatin with concurrent thoracic radiation therapy for locally advanced non-small-cell lung cancer. Br J Cancer (2003) 89, 795-802.
- 3) Toyooka S, Kiura K, Takemoto M, Oto T, Takigawa N, et al.: Induction chemoradiotherapy is superior to induction chemotherapy for the survival of non-small-cell lung cancer patients with pathological mediastinal lymph node metastasis. Interact Cardiovasc Thorac Surg (2012) 14, 565-569.
- 4) Segawa Y, Kiura K, Takigawa N, Kamei H, Harita S, et al.: Phase III trial comparing docetaxel and cisplatin combination chemotherapy with mitomycin, vindesine, and cisplatin combination chemotherapy with concurrent thoracic radiotherapy in locally advanced non-small-cell lung cancer: OLCSG 0007. J Clin Oncol (2010) 28, 3299-3306.

---

令和2年12月24日受稿  
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1  
電話: 086-235-7229 Fax: 086-232-8226  
E-mail: kkiura@md.okayama-u.ac.jp